

令和5年度 第4回平田地域協議会会議録（要約）

日時	令和5年10月25日（水）午後1時30分～午後3時25分				
場所	平田総合支所 302号室				
出席委員	12名				
	1号委員	長堀 恵理	田中井広志	小野寺孝延	佐藤 恭子
		佐藤 善仁	今井さち子	丸山 清	枝 春男
		加藤佐和子			
	2号委員	石黒 由香	佐藤 正一	須田 祐司	久松 由華
欠席委員	3名				
	1号委員	佐藤 芳紀	前田 恵次		
	2号委員	須田 祐司			
酒田市出席者	平田総合支所長			佐藤まゆみ	
	平田総合支所長補佐兼建設係長			佐々木 豪	
	平田総合支所長補佐兼産業係長			進藤 貴	
	平田総合支所長補佐兼地域振興係長			高橋 美津	
傍聴者	なし				
議事日程	1. 開 会				
	2. あいさつ				
	3. 会議録署名委員の選任				
	4. 協議				
	（1）市長報告会 市長報告内容				
	①令和5年度の活動について				
	②地域振興について				
	（2）その他				
	5. その他				
	6. 閉 会				

【協議会の概要】

令和5年度の最終回として、これまで話し合われてきた内容の最終確認を行うとともに、引き続き協議を重ね、来年度に繋ぐこととした。市長報告会にて報告する内容については、今後修正等の必要があれば適宜行っていくこととした。

【会議録（要約）】

1. 開会

- ▶事務局より開会と欠席委員3名の報告

2. あいさつ

- ▶石黒由香会長挨拶
- ▶佐藤支所長挨拶

3. 会議録署名委員の選任

- ▶会議録署名委員はこれまでどおり名簿の順番に指名することとし、小野寺孝延委員を指名した。

4. 協議

(1) 市長報告会 市長報告内容

①令和5年度の活動について

- ▶高橋支所長補佐が市長報告会の資料については例年通り今後作成していく旨を説明した。

②地域振興について

- ▶高橋支所長補佐が資料の説明をするとともに、今年度の3つのテーマ（「除雪の問題」、「軽トラ市」、「地域と小・中学校との相互交流」）について、それぞれ提案した委員による補足説明を受けて話し合った。

<除雪の問題>

○佐藤善仁委員

資料にある日向ささえあい除雪事業のようなものがあればというイメージだった。実際にこれを誰が企画していくのかまでは思いつかなかったが、この平田地域でやれたらいいと思い提案した。

○加藤佐和子委員

本日の資料にあるとおり、現在酒田市でやっているものはあっても、私の家のようにこの事業の対象にならない例もある。除雪機を購入して雪を飛ばして除雪できるお宅はいいが、我が家の場合はそういうことも出来ず、人力になる。このため、近所でトラクターを持っている方に頼んで年に20回くらい除雪してもらっている。こうしてもらわないと家から出られなくなるという点もある。日向地区のように日にちを決めてボランティアを募るというのも良いとは思いますが、日々の生活をするうえでもっと雪を捨てやすい場所を作ってもらえば、生活しやすいと思う。

○石黒由香会長

除雪の問題について意見をまとめると、理想的には日向のようなシステムがあったらいいということ。ただ、日向の例だと2日程度の日にちを設定されているが、ここに除雪してほしい時期が重なるのかという問題もあり、日々の生活とは直結していない感じがする。これからも少し検討を要するという事で、これからまたいい案を練って進めていくという市長への報告でよろしいか。

○今井さち子委員

質問だが、この日向ささえあい除雪事業というのは、地域の方であればどこのおうちでも該当するものなのか、それとも何か縛りがあるのか。例えば除雪が出来る人がいてもボランティアで道路沿いを除雪してくれるとか、そのへんの縛りはどうなのか。

○佐藤支所長

会長が言ったように決められた2日間で除雪が必要なほど雪が降っているかは分からない。どの段階でこの日にちを設定するのか定かではないが、この日程でボランティア出来る人を募って定員を決める。参加料は昼食代とのこと。そして裏面の当日のスケジュールを見ると到着したら全体説明があって活動場所へ移動。その時の状況で、個人宅も含めてボランティアの

除雪が必要な場所をコミ振のほうで選定して、そこで除雪をして頂くということだと思う。確かに除雪も大切な作業だが、そのあと昼食交流会をしながら人との交流を進めて、そこから地域へまた来ていただいたり、若しくはまた、わざわざこういった場を設定しなくても地域にまた来て個人的に仲良くなって除雪をしてくれるような、そういう繋がりも期待しているように聞いたこともある。

○高橋支所長補佐

補足させて頂きたいが、八幡の特別豪雪地帯になっている大台野地区や升田地区のエリアで実施しているようだ。ご自身が高齢等で自力での除雪が困難な一人暮らし老人の世帯や、高齢者や障がい者の世帯を予め選定して、その後地域の中で、自治会や民生委員さんや包括さん、社会福祉協議会等で対象者の洗い出しということで、実行委員会にかけるようだ。そして班編成をして生活をしていくうえで必要なガスボンベやストーブの排気口や窓ガラス等の細かいところまでみんなで見守っていくという、支障になる雪や上から落ちてきた雪も含めて対応をされているようだ。この点がご自宅の玄関から道路までのものだけが対象になる市のやさしいまちづくり支援事業と違う。

○佐藤支所長

事前に送った資料にあるとおり、市のやさしいまちづくり支援事業や雪下ろし支援事業というのは、やはり制度に限界がある。玄関先から道路まで一直線、それがやさしいまちづくり除雪。ボランティアの方を募って、雪が多かれ少なかれ、その距離が長かれ短かかれ、一直線ということである。そういった意味でもボランティアであるという訳である。それだけでも助かる場合もあるが、そこだけではなかなか生活に満足ではなく支障が出るということで、もっと深く除雪体制があればいいということで、A班からこの除雪の問題が出されたのだと思う。目指すところは、やはりこういった日向のささえあいボランティアのようなどころというのだろうか。

○石黒由香会長

この日向の資料を見ても、もう少し細やかなものがあった方がいいのではないかと、少しイベント的な要素が強くて日々に密着できるかということ、それは難しいのではないかとと思う。これは今の時点で平田地域協議会のサンプルとして、また、この地域協議会で生んだものを注ぎ足していけるような何かを出していければと思う。

○佐藤支所長

その仕組みを考えるとということか。

○石黒由香会長

事前に資料を送ってあるので、「考えて来た」という方はいないか。

○高橋支所長補佐

事務局から質問させて頂きたい点として、やさしいまちづくり除雪支援事業は高齢者等や障がいのある方等だが、この場合の対象とはどういった方をお考えになるのだろうか。このへんも併せてご提案を頂けるとありがたい。

○今井さち子委員

民生委員がおこなっているこのやさしいまちづくり除雪支援事業では本当の一人暮らしや高齢者、障がい者はもちろん入るが、それ以外でも「あそこの家は大変なのではないか」というご家庭も何軒か見られるので、もう少しプラスして頂きたい。地域によっては自治会長等に相談して入れている所もあるようだが、もう少し間口の幅が広いと良いと思う。また、このやさしいまちづくり除雪支援事業の除雪に協力してくれた協力員さんは1日の料金であって、例えば1軒しか除雪しない人も、3軒した人でも1日なのである。ボランティアであるとはいうものの、そういったところもある。中には旦那さんと奥さんの名前で出していて、2軒分入るというのを聞いたことがある。全体の定例会でも、今はなかなか除雪に協力してくれる人達も少なくなってきたという話が出ていた。これが妥当なのかは分からないが、考えていけたら良いと思っている。

○石黒由香会長

何年も考えて来た話ではあるが、今ある制度はなかなか活用されてきておらず、除雪してほしいのに対象になっていないのでできないとか、対象にはなっているが、除雪ボランティアに来てくれる人がいないとか、その双方の問題がある。そのあたりを上手く歩み寄ってやっていける方

法が提案されるといいと思う。

○田中井広志委員

私の集落は沖である。日中私も留守にしているが、雪は日中降る確率が高いため、早朝や帰宅してすぐに除雪をしている。ごみステーションや集会所やバス停の周りも除雪しているのだが、やはり日中降ることが多い。日中、ボランティア活動として除雪してくれる人が割といるので私は助かっている。そういった地域でやってくれる人を抜粋して、それに我々が手助けしてやっていったほうが良いのではないかと思う。

○石黒由香会長

ボランティアスタッフは登録制か。誰でも良く頼めるのか。

○佐藤支所長

民生委員さんがやってくれる人を探して登録してもらはずである。

○今井さち子委員

自分の所は自治会長さんが協力して下さっている。除雪ボランティアに関して提出するのは私だが、高齢者に該当しないがやはり除雪してもらいたいという方もいらっしゃるし、玄関から道路まででなく、もう少し広げて欲しいという方もいらっしゃる。これは私の所だけでなく平田全体である。

○佐藤支所長

今ある制度ではさまざまな課題があるので、こういった日向のボランティアのようなことを描いても、実施が年間2回であることやイベント的な面もあるので、もっと生活に密着したボランティアで支え合うような何かを構築できればということを目指すということによろしいか。何がどう出来るのかということまでは今は難しいが、やはり地域では除雪という点が課題だと捉えているということだと思う。

○石黒由香会長

本日コミ振からおいでになっている委員で、こんな事で困っているとか苦情が来ているというコミ振はどれくらいあるのか。

○長堀恵理委員

田沢コミ振には声も苦情も届いていない。

○佐藤支所長

道路の苦情は平田支所にくる。

○長堀恵理委員

苦情等が支所に直接行っているというのはあるのだろうが、コミ振に苦情等は来ないし、周りで困っている人も見かけない。

○佐藤支所長

農家さんのトラクターで除雪をやってくれているからなんとかなっているのだろうか。

○長堀恵理委員

私の近所では、高齢者が高齢者のお宅に、一人暮らしの人が一人暮らしのお宅にトラックで行って、毎年やっているからやるという体制が出来ているのだと思う。だから新たなことに取り組まなくても私の地区では大丈夫なのだと思う。

○田中井広志委員

特別苦情は来っていない。ただ、これからはそういった雪が大半を占めるのだと思うが、昨年のように重い雪が原因で倒木になったり屋根の雪降ろしに難儀するということが問題であり、道路の除雪に関しては田沢コミ振と同様に周りの人がトラクターで除雪してくれているので、あまり問題ではないと思う。むしろ屋根の雪降ろし等のほうが問題になってくるのではないかと思う。

○小野寺孝延委員

苦情は無いが要望はあるようだ。障がい者や高齢の方は除雪しづらいので玄関から道路までを近所の方で手伝える方が手伝っているとのこと。あとは除雪車が来たときに雪だるま的なものがゴロゴロと置いて行かれたものは若い人でもやはり重いので、各家庭でたいへんだと思う。それを含めて余力的なものや、私の近所に関しては農家さんのトラクターで自前でやっているのを、

その人達に頼んでいる人がいるのかどうかは把握しきれていない。

○佐藤恭子委員

あまり個人的に困っているという声は聞こえてこないし、除雪ボランティアというのは聞いたことは無い。ただ、除雪車が来て門の前にボンと雪を置いて行かれるのは困る。トラクターを持っている知り合いに頼んで半分くらいどけてもらうとか、年寄りだけでもなんとかやっている状態のようだ。我が家は駅前であってメインストリートのようなので、県の方で来るのか良く分からないが年2回位は排雪に来ている。

○石黒由香会長

まとめると、山間部の方ほどなんとか間に合っている状況のようだ。ただ、この既存のものから何か新しいものを生み出すには、今の状況を細かく把握して、実際に何が必要で何が足りず、何が問題なのかをもう少し洗い出す必要がある。そうしないとせっかく作っても完成度が低くなってしまわないかと思う。まずは洗いざらし現状を把握してから入らないといけないと思う。

○佐藤支所長

例えば、道路の除雪の際には高齢者だけの世帯の前に雪を置かないようにしていると思うが、それは民生委員さんから対象世帯を挙げてもらっているのか。

○今井さち子委員

挙げてはいるが、なかなか現実はそうでもなさそうである。

○佐藤支所長

急いで除雪しなければならなかったり技術的な面もあるので、一軒ごとの対応も難しいところもあるかもしれないが、容易でないお宅の所の前には雪を置かないようにという、努力義務で頑張ってもらっている。

○石黒由香会長

除雪の今の状況を把握して、本当に欲しいものを酒田市に提案することになる。今年度は地域協議会からの提案として具体的な内容まで詰めることはできなかったが、今の制度に課題があるのでもう少し生活に密着した仕組みになれば、ということまで纏めた協議の途中ということになる。

<軽トラ市>

○石黒由香会長

たまたまこの会議の直前に、近所の農家さんで野菜等、物を作るのが大好きな方がいて、その方が余るほど作ったものを「これを何とかしたい」と言っていたのが耳に残っていた。軽トラ市も前から知っていたので、賑やかで物産や人の交流ができていいと思っていた。私の想いとしては、この土地で育った物を生産者とコミュニケーションをとりながら販売するという場ができたらいいいと思い提案し、A班の皆さんから賛同して頂いた。

○長堀恵理委員

田沢コミ振ではコミ振の中に農生部会という農業を中心とした部会があり、その「ちょこつと市」という事業で野菜を売りに行っていて、今年で5年目になる。北前朝市にも6月から11月まで毎月お世話になっている。庄内町の文化祭や金魚まつり、酒田の松原コミ振等にも行って「今年もまた野菜おねがいます」と言われて販売している。様々なイベントの方に田沢の物を持って行っているが、軽トラ市とは違って生産者は付いていかない。生産者の顔は見えないが、生産したものを売るお母さん達3~4人が販売員として会場に行って田沢の物を販売してくる。この事業をする理由は、所得向上を目的にやるという事。生産したものが少しでもお小遣いになり、いわば捨てるものがお金になって返ってくることが嬉しくなり、それを目的に始めた。今ではだいぶ波に乗ってきていて、品物を出してくれる方が今年また増えた。今年の猛暑で野菜がうまく育たない中でも出してくれる人が増えて助かっている事業である。こういう事から、この軽トラ市には力を入れて協力したいと思っている。

○石黒由香会長

この軽トラ市の対象、場所や時期、定期的にするのかイベントの際にするのか等、皆さんの中

で成功するイメージはどんなものをお持ちなのか伺いたい。

○小野寺孝延委員

軽トラを持っていなくてもやりたい場合はどうなるのか。野菜や加工食品のみなのか、それとも他に派生できるものを出したいという方も参入可能なのか。

○石黒由香会長

軽トラがずらっと並んで新鮮な野菜を売るというイメージは出来るが、山元の籠あみ等平田地域の中でもいろいろな技術を持っている方がいる。私は以前ピクニックランドでフリーマーケットをやった事があるが、場所が狭かったため軽自動車の後ろのトランクを開けてずらっと並べたらお店ができた。軽トラに拘らず、いろいろな形で臨機応変に出来ると思う。コンセプトとして生鮮野菜に限るのかいろいろ巾を広げてやるのか、それもここでの話し合いによると思う。軽トラ市はどこにでもあるというので、もう少しボリュームアップして他に無いものを作ろうというのであればそれはそれで良いと思う。

○小野寺孝延委員

私は、仕事の都合上軽トラを持ってないのだが、軽トラ市に参加するために軽トラを買うのは難儀だと思う。先ほど言われた、籠を作るというのはカテゴリ別になるのか。籠あみ等、せっかくある技術をもっと広めてもいいのではないかと思う。

○長堀恵理委員

補足だが、農生部会では野菜だけでなくつる細工等で籠を作り、それに100均で買ってきた花を入れて花籠にして売ったことがある。値札に1,000円と付けたら1,000円で買ってくれた。農生部会には「手づくり教室」という、お母さんたちが集まって好きなことをやって作るもう1つの事業がある。最初は編み物を作っていたが、巾着やバッグも作るようになったので、それも出店してもらい買ってもらった。今はさしこを作っているので、さしこも売ってみたいと思う。近所に物を作るのが好きなお母さんがいて、自分で買ってきた材料や要らなくなったものを再利用してバッグ等を作っているが、それも全部販売している。特に野菜でなければならぬ訳ではなく、田沢にはこういったものがあるという宣伝という意味もあって、事業としてやっている。

○丸山清副会長

軽トラを置いたまま、半日もそこに居る事が負担ではないか。草刈り等の作業もしなければならぬのに、人がずっと付いていなければならない。そういった点では「ちょこっと市」であればそれをやらなくても引き受けてもらえる。それは他に無く、よく道の駅などに見られるボックスに似た形で、ハードルがかなり低くお願いできる。その点は非常に優れていると思う。あとは販売する場所やターゲットで「平田ならでは」というワードを出したい。酒田に持って行くのも天童に持って行くのも悪くは無い。「ちょこっと市」みたいに酒田に持って行って定期的に出すのも良いが、平田に行かないと買えないような平田オリジナルの場所でやっている、平田ならではの平田カラーを出したいと思う。

○久松由華委員

長堀委員の説明を聞いて、これこそが地域振興だと思う。「ここはできるがここはできないので誰かに頼む」とか、「私はそれが得意だから私がそれをやるよ」とか、それを他でやったことによって「うちにも来てくれ」とか、そうやってすごく広がっていくというのはとても理想的な活動の内容だと思う。生産者がめんたま畑に物を出しているが、それはハードルが高く、絶対にやらないといけないとか毎日持っていかなければならない。こういう商品は良いがこういうのはダメとか。それは生産者がいて持って行っているとなれば説明もできるし、こういうところが良い所と説明もできる。いろんなものを持って来て「こんな事もあんな事もできるんだよ」ということになる。良い活動だと思う。

○石黒由香会長

山間部のおばあちゃん達がおうちにて、縫物をしたり籠を作っているのを見て、売りに出してみないか尋ねても、「自分で売ることができないから売られない」とのことだった。自分が売るイメージですごく遠慮していたが、実際に作った籠は云万円もするような本当のアケビつるで編んだようなものが眠っていた。郡鏡・山谷コミュニティ振興会でやっているわら細もあり、売ってあげたことがあるが、売れるとすごく嬉しそうで励みになり、生きがいになるようだ。た

だ家にいるだけでなく、「こんな私が作るものでも、売れるならもう少し作ってみるか」となり、そこでまた生きる希望や生き甲斐づくりの支えが出来るのではないかと思う。

○佐藤支所長

これは来年出来そうでないか。地域協議会の委員は各コミ振からも選出されているし、今お話しあったように農作物だけでなく手づくりの物など、コミ振連協を通していろいろと出店物や出せるものをコミ振からまとめてもらって、どこの場所でやるのか、一か所でやるのか、それこそ「ひらた〇〇市」として。手づくりの物を売るといったチラシを広報配布日に平田管内に配る。八幡・松山まで配ってもらう位に広げて宣伝すれば、結構人も来るのではないかと思う。人が沢山来ればそれなりに準備も必要だが、どのくらい物を出せるかによって規模もどの位まで周知するかも決まる。今の生きがいつくりや産業振興という面でも、割と簡単に来年から取り組めそうな気がする。市の予算を使わなくても、コミ振の人達が頑張ってやってみようということであれば。そのためにコミ振連協があるという事だし。

○小野寺孝延委員

コミ振の持ち回りでも良いのではないか。

○佐藤支所長

そこに支所の地域振興係も入れて支所も関わって、予算が無くてもできそうな気がした。来年からやってみないか。

○石黒由香会長

やってみたい。ありがたいことに委員は2年任期の今年1年目なので。

○佐藤支所長

ここの地域協議会の委員がやるのではなくて、あくまでもコミ振に落として、コミ振の人達がやれるかどうかを確認していきながら。

○石黒由香会長

そのおおもとの形はここで作った方がよい。それともこういうことをするのでと振った方がいいか。

○佐藤支所長

コミ振連協に振ったほうがよい。こういう形でこういうのをやってみてはどうかとコミ振連協にふってやってコミ振連協でもんでもらって、5つのコミ振でどういうふうにやれるかどうか。だから来年からできるのではないかと思う。最初からあまり大きくしないで。

○石黒由香会長

イベントもそうだがどんどんダメな所は削って、良い所は伸ばして。

○佐藤支所長

何回かやっていくうちに、より良いものになっていくと思う。これをやってみないか。

○石黒由香会長

やってみるか。今の状況を市長報告会の時に載せさせていただきたいと思う。

○枝春男委員

長堀委員にお尋ねしたいが、その売上金はどのようになっているのか。

○長堀恵理委員

地域のお母さんたちに販売員をお願いしており、その分もその売り上げから賄っている。始めた頃は売り上げだけでは賄えない状況なので、コミ振からも負担して頂き、纏めて支払っている。いずれはコミ振に頼らなくてもやっていけるような体制にしたいと話しているが、まだやっていけないので、コミ振から予算を立ててもらってその中で割り当ててやっている。

○枝春男委員

やる気がすると思う。

○長堀恵理委員

完売してしまい、翌日売る分が無くなって「明日の分まで売ってしまった」と電話をすると「みんな売れたのなら良いのではないか」と喜んでいて声のトーンが違っていた。本人は全部売ってもらったことを喜び、次回はもう少し多く出してみようかというふうになる。「来年も頼むの」と言うのと「生きていたらの」と返ってくる。結構冗談交じりにやり取りしているが、本人

は喜んでいて毎年出してくれる。それも「いついつ受け取りに行くからの」と言って全部対応するので、高齢な人でも不便も無くやってくれる。

○佐藤恭子委員

売り上げに関するの申告はあるのか。

○長堀恵理委員

領収書はお渡ししている。

○石黒由香会長

フリーマーケットのイメージだと思う。自分で値段を付けて売るイメージ。

○枝春男委員

今まで産直の小型化なのかなと思った。今日も朝早くから産直に並んでいた。酒田市内からみんな来ているようで、お昼頃に行っても産直には何も無い。あれだけ人気があるのだから、毎日やると産直の商売敵になってしまうので、例えば月1回とか定期的にやるのであればいいと思う。

○高橋支所長補佐

確認させていただきたいが、この2番目のテーマとしては「軽トラ市」というよりもフリーマーケットのようなものか。何かふさわしいタイトルはどんなものがあるかをご提案いただきたい。

○小野寺孝延委員

酒田北前朝市でのカテゴリはフリーマーケットではないかと思うが、特産となると限られてくる。

○石黒由香会長

平田地区で生まれたもので良いのではないかと思うが、名前は少し検討させていただきたい。フリーマーケットと銘を打っても売ってはいけないものもある。例えば加工品であれば免許が必要だし、いろいろある。これも1番と同様、協議の途中経過として市長報告に向けてまとめさせていただきたいと思う。

<地域と小・中学校との相互交流>

○丸山清副長

地域と小・中学校との相互交流という事で、具体的にはあれから東部中学校と南平田小学校に行き、それぞれの発表会の資料を校長先生から頂いて見て来た。具体的には9月21日に東部中に行った。指導してくれているのは一般財団法人酒田DMOという、観光地域手づくり法人というところで、酒田市中町にある会社が中間に入っていた。「地域の宝コンテンツ作り」というテーマで、平田・松山の宝物を広めて、自分達がより楽しく遊べるためにとということで、12チームが2分間のプレゼンをそれぞれする形でやっていた。その中には平田の食、農業体験、自然、食、ハイキング、星観察、グランピングや今流行りの遊び方をSNSを使ったやり方でやっているのがあった。地域の食材を使った料理教室や雪を活用した遊びなども提案があった。もちろん地元の米の企画もあり、日和山に行っているいろいろ加工した新米を屋台で販売しようというのもあった。面白かったのは、6人位の生徒が「私達がやります」と言っていたこと。「私達がやって、時間は何時から何時まで、参加料を一人500円や700円にして、その内訳はこうです」とか。「日和山の何々駐車場の西側が良い」と、かなり具体的に深掘りしていた。協力してもらいたい団体や場所、貸してもらいたい所、彼らは車の運転ができないのでかなり深掘りされていて、かなり面白いと思った。すぐにでもやれるのではないか思ったのは、「タウンセンターで平田ならではの『ずいき芋』を利用したみそ仕立ての芋煮会を私達がやりたい」と中学生の女の子が言っていたこと。自分達がタウンセンターの調理場で調理してそこで振る舞ってお客さんと呼び、何かもう一つ美味しいものを食べるという企画をしていた。それはすぐできると思った。そういう形でひとつずつに対して酒田DMOの荒井代表という方が、「ここが良かったね」、「ここをもう少しこうすればいいね」と、先程お話があったように「独自性はどこですか」という事でいろいろ指導していた。そういったことを3年生の生徒全員が考えて「地域の宝物って何だろうね」と考えている授業がいいと思った。彼らはすぐに、高校生、大学生、大人になる訳なので。同じように南小でもやっていた。南小は直球だった。「平田に向けて意見文を書こう！」

というのが目的で、括弧国語と記載してあったので、国語の時間でやるのだと思うが、サブテーマが「平田の未来に対する意見書」、これがメインテーマだった。その下にあるのが「平田のPRプロジェクト」というのがあった。彼らはコロナ禍の中、遠くに行けないので、米沢や山形、天童など内陸に行って平田のPRの冊子を作って無料で配る活動をする形だった。その冊子をもった人からありがとうという手紙やはがきが学校にいっぱい届いていた。それをみんなが見て、どう思ったかを全員で書いた作文が分厚くあった。それが5項目に分かれていて、若者対策への提言や平田の少子高齢化に触れていた。中には「20年すると平田のまちは地図から消えます」というのがあり、「10年でこうなるのでこれを少しでも消えないようにするための対策」といろいろと書かれていた。いろいろな町おこしをするイベントがあり、中には難しいところもあったが農業への提案、観光への提案、仕事への提案、伝統への提案という事で5つの分野に分かれていて、それぞれ作文を書いていた。「平田の伝統を小中学校の体験教室でやりましょう」という提案もあった。「このままでは平田の伝統文化が無くなってしまいます」と自分達が言っている。観光では「平田スタンプラリーをやって平田のなかではどこでも使えるようなお金に代わる平田何とか券を出して参加した人から平田の物を買ってもらおう」と。最終的に気づいた男の子が「平田のいい所は僕たちの日常自体であるということに気がきました」とのことだった。窓から見た鳥海山や学校から見える田んぼがある。大きな建物も大きなアイスクリーム屋さんも大きなデパートも無いけれども、他の地域からしてみたら、そういう綺麗な山が見える所や田んぼが綺麗にあっておいしいお米がとれる所を修学旅行先で羨ましがられてきたようだった。そういったことを地域協議会としても下支えをしてあげて、一緒に考えて、聞いたりすることは、まちの大人が真剣に僕達私達の事を見てくれているのだという教育である。そこから大きくなったらいざ大人になって帰ってくる子もいるだろうし、いい授業だと感じた。だから是非力になってあげたいと思った。校長先生が言っていたのは、「残念だが彼らはもう卒業してしまう」ということ。「6年生なら中学生になり、中学3年生は提案したのに芋煮を作らないままに高校に行ってしまうとバラバラになる。高校は3年間あってもいい所2年くらいなので、あとは大学に行くとバラバラになる。やはり企画はしたけど何1つできなかったというのは残念です」と言っていた。

○久松由華委員

それは、意見としてはたくさん出たが、それを実現するというところまではいかないということか。

○丸山清副長

実現させてあげたかったのである。去年聞いていたらきっと今年芋煮会を実現できていたのだと思う。そんなにお金もかからないし、自分達でやるというのだから、道具だけ準備してあとは自分達がやるという訳なので残念だったと思う。1つでも提案したものが実現できればと思う。日和山で自分達が物を売りたいというのが実現できれば、そのために我々が力になればと思った。

○小野寺孝延委員

実現できなかった理由としてはどういったことがあったのか。高校や大学に行くのは分かり切っている訳なので、確かに時期は遅くても、それが理由なのであれば、実現できるためにどういったことをするのかという話もあるのではないかな。

○丸山清副長

そこは当然、高校に行ってもできるという話もあると思う。そのためにはどういう段取りをしてもう一步深掘りして、どこが実行委員会をして誰がリーダーになるかという話になれば無理な話でもないだろう。

○小野寺孝延委員

いろいろ提案したのが3年生なのでということなのであれば、3年生に向けて1年生のうちからできるのではないかな。学校側のお話になるとは思うが。

○丸山清副長

南平田小学校は中学校につながる訳である。

○小野寺孝延委員

中学校であれば中学校との連携になる。

○石黒由香会長

先程回覧で回したように、小学校で夢を持っていたことを中学校でもう一度ワンランク上で膨らまして提案できるというのが、平田の子達なのだが。

○小野寺孝延委員

夢があって語って実現できる前に卒業しましたという事であれば、何のためにやっていたのか。

○丸山清副長

小学校で考える教育、中学校も地元なので、支えてくれている委員の皆さんのような方がおられる。「そこは僕が、私がリーダーでやる」と、子どもだけに頼らせる訳にもいかないのです、そこは細部からサポートしてあげたい。

○小野寺孝延委員

そういう意味ではこの地域協議会のメンバーも、という事か定かではないが、そこが相互交流という形か。

○丸山清副長

そういう話になると、これから出る4番目の話になる。我々が話したが、自分達がやる訳でないし私がやるわけでもないというときに、どんなに意識付けや理由付けや協力できるかとかというのが4番目だと思う。

○小野寺孝延委員

高校位までだったらその当時の学生さんを集めてやる事も出来るのではないか。

○丸山清副長

ボランティアや協力したいという話もあり、非常にいい話が聞けたと思った。

○小野寺孝延委員

高校生になってもその方の夢を叶えさせてあげられたらいい。予算は酒田市からたっぷり出して。冗談で言ったのではなく、そこまで育てていくにはお金はかかるのだと思う。

○丸山清副長

そこまで地域でまとまって育てていくという小学校、中学校は他に無いのではないかと考えている。いいところだと思う。

○枝春男委員

ここにもあるように10年前の記事ではあるが飛鳥中には「飛鳥ブランド」と言って前々からあった。子どもたちがグループで話し合っ企業と連携して商品を作って販売をしていた。田園調布の女子中学校に行って販売もしてきたし、今でもその当時の商品が残っている企業が販売をしている。それはもう実現しているので、東部中でアイデアを募ってふれあい商工会などと連携しながら企業と一緒に挑めばなんとかできるのではないかと思う。それは中学生のうちに。できるだけ小学生のうちに実現させてあげたいという気持ちがある。小規模でもいいので、夢は大きく、現実はお小さくてもいいので子どもたちの夢をかなえてあげたらいい。我々大人が現実近づけさせていって実現させてあげるという事を考えていきたい。

○田中井広志委員

前向きな意見で素晴らしいと思う。ただ、私はその前の軽トラ市も一緒に何かできないかと思う。お母さん達にお願いするのではなく、企画や販売を小・中学生に依頼してやってもらうのも年に何回か取り入れてやればできるのではないかと思う。

○石黒由香会長

この相互交流については、平田には小・中学校を見ても素晴らしい子ども達が育っているというのは間違いのない気がする。中・高を通してできる限り大人が子どもたちをサポートして夢をかなえさせてあげたいというのは切に思った。

そこから、どうやって実現させていくかという事で次の4番目になる。

▶高橋補佐がこれまで話し合われた内容（「除雪の問題」、「軽トラ市」、「地域と小・中学校との相互交流」）をさらにもう一歩先に進める行動の企画についての資料の説明を受けて話し合った。

○丸山清副会長

「コミュニティ振興会との連携、有志を募る」とあるが、「何々をやりたいからどうするか」と言うよりも、「これをやるのでどうするか」と絞り込んで捉えていった方が良いと感じた。例えば、今のその軽トラ市のようなコミ振との連携など。コミ振の方が生産者の顔も分かるし地元の人たちを一番よく分かっている。それが地域協議会だったら行政も入っているので会場やいろんなところで拙宅できる。小中一貫の良い所云々に関しては当然、教育委員会も含めた校長先生方との連携が必須になる。例えばそこで何々を売りたいという事が出てきたら、売る物や、売る場所に関する所で結びつき、グループを作る。そういう事の方が現実的と今のところ感じている。ただ、今までは、提案するのがこの地域協議会のスタンスであって、私たちは直接動くのではないと言われた時期が長かった。今はさらに一歩先に行けるということを楽しんでいる。

○佐藤支所長

今、田中井委員から話のあった軽トラ市に小中学生を関わらせるというのは、それは良いと思う。そういう関りを持たせながら〇〇市をやっていくというところをコミ振を母体として展開させていきたい。そういうことを地域協議会として提案したという内容になると思う。③の地域と小・中学校との相互交流については、実際、小学校が良いのか中学校が良いのか、それとも両方が良いのかというのはあるのだろうが、実際来年、地域協議会の委員がこういった会議室から飛び出してそれぞれの学校に行って子ども達とテーマを絞るのか、事前に何人かに絞るのか。行った先で出てきたことを何かに纏める必要は無いかもしれないが、いろんな話し合いをして、子ども達が考えている事や大人が考えている事をそれぞれ理解し合う。そういう協議の場があってもいいと思っているので、来年是非ここは皆さんからこの会議室から飛び出してもらって子ども達と実際話をしてもらって、そんな場面を作りたいというのが、前回B班の話を聞いていて思った。もし皆さんが来年やってみたくてここで纏まれば、会長、副会長含めて中学生とやるのか小学生とやるのかも絞ってもらって校長先生の方にも来年度のご相談をさせて頂きたいと思う。こどもも1つ、今までと違う地域協議会の在り方なのかなと思っている。今、丸山副会長が言われた、一歩先に進めるための企画ということで系統図を作ってみたが、やはりそれぞれのものによってはどちらともいえない部分がある。有志団体はなかなか難しく、どこが作るのかという点でも非常に難しいのだろうと思っている。例えば軽トラ市であれば、コミ振毎に出店する人を集められるのであれば、直接コミ振に地域協議会の方からご相談をする。こういう提案があるのでどうかとコミ振に持って行く。あとは小中学校に地域協議会が直接行って話をするという動きで良いのではないかと考えている。この辺りは丸山副会長が言う通り臨機応変に向かうのでいいとも思っている。

○佐藤正一委員

今の支所長のお話にはすごく賛同する。ただ、支所長たちは来年居ないようなので、後任者にうまく引き継いでもらわないと、うまく実践できるのかという心配はある。

○佐藤支所長

来年度も同じ会長、副会長なのでその辺は大丈夫だと思う。

○佐藤正一委員

この矢印の付け方だが、地域協議会が上段に立ってというイメージに見えてしまう。これは相互協力みたいな形で、矢印が両方にあるべきではないかと思う。地域協議会からの提案があったり自治会長会やコミ振からの提案があったりというようなことでもよい訳なので。その事象、事象に対してどんなやり方をしたら一番効率が良いのかという事を考えながらやるという事ではないかと思う。

○田中井広志委員

以前、丸山副会長と話をしたことがあったが、コミ振間の横の繋がりをもう少し持っていきべきと思う。そういった中に地域振興の橋渡し役のような役割を持ちながら、今田沢コミ振で取り組んでいる農生部会のようなものを展開してもらって、より一層発展していくのではないかと考えている。よろしくお願ひしたい。

○佐藤支所長

平田のコミ振連協が4～5年くらい前に一度解散をして、その間各コミ振が単体であるという状態だったため、なかなかその情報共有が図れない状況だった。昨年、一昨年と続けて懇談会な

どをさせて頂き、今年度コミ振連協の再立ち上げをした。例えば田沢コミ振で取り組んでいる買い物支援やおたすけ隊等の生活支援等、他にも広めていって波及効果が出れば良いという事で、いろんな情報交換をしている所である。今年まだ春先に1回しかやっていないので、もう一度やってこの軽トラ市なるものを少し話していきたいと思う。コミ振の役員の方ももう1回やろうという事になったので、これからは連携良くやっていけると思う。

○石黒由香会長

この「できることをもう一步先に進める企画」という点については、ここに提示してあるとおりの図のようにはなかなか全てがうまくいくわけではなく、丸山副会長が言った通り臨機応変にしていく形で進んでいけたらと思う。

○佐藤支所長

来年飛び出す地域協議会は小学校、中学校、どちらをターゲットにしたら良いか。

○石黒由香会長

中学校ではないか。小学生全く計算なくやりたいことを出すので、突飛な意見だが、これが叶ったら面白いよねとは思うが。

○佐藤支所長

小学校程度だと、こちらが言うことに対してのやり取りが難しく、キャッチボール的な対話をするには中学校かと思う。

○石黒由香会長

小学校の夢を丸ごと持って来て、また中学校でもう一回煮詰めて膨らましたものを受けても良いのではないかとも思う。

○佐藤支所長

東部中には松山の生徒もいる。私達は平田の地域協議会、平田の地域振興ということなのだが、そこは分け隔てなく、松山の子が入ってきたとしてもそこは良いと思う。逆に松山の良い所はどこか等も含めるという事にして頂ければと思う。中学校に行ってみたらどうか。

▶石黒由香会長が佐藤支所長の提案に異議の有無を諮るも異議なし。

○佐藤支所長

それでは早速、石黒会長と丸山副会長とともに東部中にご相談にいかせていただく。

2 (2) その他

○長堀恵理委員

先程からお話させて頂いている、農生部会の「ちょこっと市」なのだが、野菜がなかなか集まらずに苦慮している。実際には田沢地区以外の野菜も持って行っている実績もあるので、田沢とは言っているものの、少しでもいいので野菜を提供できる方が居たら声を掛けていただきたい。ご協力よろしくをお願いします。

○佐藤正一委員

近所に野菜を作っていて余っているような人がいたら、「長堀さんに連絡すると取りに来て売ってくれるよ」と声掛けをすればいいという事か。

○長堀恵理委員

そのとおりである。今月はもう無いが、来月5日と12日に開催する。5日は北前朝市に行くし、12日は田沢コミ振で開催するそば打ち体験と一緒に「ちょこっと市」をする。

5. その他

○小野寺孝延委員

今日で協議は終了で、あとは年度が変わるまで無しということで良いか。

○佐藤支所長

一応、今日のまとめで2月に市長報告会というのがあって、3支所の会長、副会長と市長が集まるので、その時の資料は皆さんに郵送する。あとは来年度、4～5月に第1回目ということでやる予定。

■安川副市長の「つぶやきばー」について（情報共有）

- ▶佐藤支所長が概要を説明

■事務連絡

- ▶車賃の支払いの事務連絡

6. 閉 会

- ▶丸山清副会長閉会